



維新の神道家
 郷土が生んだ
 突野半 生誕百七十年記念事業

突野 半 (ししのなかば)

弘化元年9月9日生(1844)

明治17年5月18日没(1884)

國村神祇之被(田)薩摩川内市麻之輪町に生まれる
 薩摩省大藏頭に任官のちに皇典講究所(現 國學院大学)の
 創設にたずさわるなど近代日本の宗教制度を築いた
 江戸幕府より兼任されていた富士講を辞棄し明治15年
 神道扶桑会の創設特立を待て初代宮長ととなり教祖と仰がれる

平成26年5月10日(土)

記念参拝

新田神社 10時～
 薩摩川内市宮内町1992-2

記念講演会

ホテルグリーンヒル 13時30分～
 薩摩川内市樋崎町市比野250番地



基調講演講師
 鹿児島県神社職長
 鹿児島神宮

川上親馬 宮司

お昼食ご案内

ホテルグリーンヒルにて11:30～13:00
 お一人様 1,500 円でランチバイキングがご利用に
 なれます。ご希望の方は事務局までFAX等でお申し込み下さい。

主催：突野半生誕百七十年記念顕彰会
 後援：全国富士講壇・神道扶桑会

お問い合わせ
 事務局 TEL/FAX 0986-87-1878
 090-5805-8537
 (担当：突野)

宮野半教祖さまの生立ち

教祖さまは、弘化元年九月九日、鹿児島県の薩摩郡隈之城村、現在の川内市隈之城町にお生れになりました。

幼名を半左工門と申し、いみじくも半(なかば)と称しました。父は宮野休左工門、母は加女(かめ)と申し、その次男としてお生れになりました。

宮野家は四柱を三輪といい、代々薩摩島津家の藩士で、先祖は薩摩因幡郡宮野村に住んでおりましたが、教祖さまから五代前に、前記の隈之城に転住しました。

安政六年、教祖さまが十六才のとき、鹿児島藩の国学局に入學されました。国学者として、また神道家として身を立てようとする第一歩は、このときに芽生えたのであります。

なつかしい故郷を離れ、青春の志を抱いて京都へのほり、復古神道の大家、平田篤胤先生の門を叩かれましたのは、王政復古となった明治元年、教祖さまが二十五才のときであります。そして五年間、この平田塾で熱心に国学と神道を御勉強なさいました。うまれつき御聰明の上に、さらに長い間の御勉學により、珠玉はますます磨かれ、教祖さまとしてお立ちになる貴業はこのとき十分に身につけられました。

明治五年夏に平田塾をはなれ、東京へ上京されました。そしてその年の七月九日に教部省十三等出仕を拜命なさいました。これが教祖さまの任官の振り出しであります。まもなく十一月二十八日には十二等出仕に昇任されました。

これより先、同年の秋には、森本であった藤田左京(六代將軍家宣公の御生母、月光院の宸宮)の長女と婚約が成立し、明治五年十一月一日に、めでたく結婚式をあげられました。教祖さまと苦學をともにし、内助の功があった御令室は名を輝也(つとむ)と申されます。

淡路神社宮司と富士一山神社の結成

明治六年二月、教祖さまが三十才のとき、有栖川宮徳仁親王殿下の御命令によって、その大教院會計長となり、明治新時代の宣教活動に大いに努められました。そして同年の二月二十三日には畿河内富士野(現在の静岡県富士宮市)に奉祀されている宮野大社淡路神社初代の宮司となられ、同時に山梨県の湯村北口淡路神社の社司も兼務されることとなりました。これがそもそも教祖さまが富士道の道統をお注ぎになる動機となったのであります。

この淡路神社宮司時代に、吉田須走の御師たちをはじめ、全国の富士講社先達たちを広くお集めになり、当時、布教禁止の富士道に復活の気運をかもし出して、吉田口、須走口などの御師たち、数多の講社の先達たちからの御願のもとに、富士一山神社(神道教団の前身)を組織されたのであります。

神道事務局下のご活躍

明治十四年二月二十三日有栖川宮さまを神道事務局總裁に、元老虎橋宮岩下方平氏を副總裁に御さし神事に任命されました。三月一日總裁有栖川宮さまが神道事務局へお成りのとき、親しく神道事務局百規のことを取扱うべき旨を、とくに教祖さまに御心になりましたので、教祖さまはこの官職下の御信頼に感謝され、御骨砕身しても、この御信頼にこたえなければならぬと御決心なさいました。それから毎日のように神道事務局へ御出勤になり事務局の内外をいろいろと改革されました。

以来、日夜御苦勞をなされ、その当時の金にして七千円という神道事務局の莫大な負債を整理されて、ことごとく現金の方法をたてられ、全国の神道界を一層振起させ、大いに国光を輝やかされました。

昭和五十七年出版
福田勝水著「扶桑教祖伝」より

参加申込書

FAX : 0996-27-1878 FAXにてお申し込み下さい

御芳名 _____

ご住所 〒 _____

お電話 (_____) _____

参拜 出席 ()名
記念講演会 出席 ()名

[ランチバイキング 希望()名・不要]